

## 塩焼き見学会・菅村まほろばの里俳句吟行会

「海の俳句全国大会」関連イベント

平成30年5月20日、風薫る快晴の空のもと「海の俳句全国大会」の行事の一環として「塩焼き」が行われました。塩焼きとは海水を平釜で煮詰めて製塩することで、海とのかかわりから産まれたいわきに残る生活文化といえます。

いわき市平菅波にある菅村まほろばの里の「塩屋埼松涛塩伝修館」には、奥行2m、幅1.2mの煉瓦造りの竈（かまど）があります。その竈に長さ90cm、幅60cm、深さ30cmの平釜が据えられており、その平釜に海水をどんどん注ぎ足して煮詰めて行きます。



朝5時に始まり220リットルの海水（いわきの深層水を採取されたとのこと）が焚かれて、7時間かけておよそ2升の塩ができあがりました。





菅村まほろばの里（大國魂神社）のあたりは古代の条里制の名残りの畔がある水田があり、すぐそばに国指定の史跡、甲塚（かぶとづか）古墳のある歴史性豊かなところ。塩焚きの見学の後そうした景も含めて吟行句会が催されました。塩焚きの参加者はスタッフ含めて25名、投句者は12名でした。里の自然に囲まれた句会場で参加者は初夏の季語を満喫しました。また来年も塩焚きを見てみたいという声がたくさん聞かれました。



大國魂神社を出たところ 苗代・早苗のならぶ景も見られました

（米田清文）